

# 平成 24 年度 社会福祉法人 復泉会 事業及び収支決算報告

## I. 法人本部・事務局

### 1. 理事・役員会、評議員会の開催

### 2. 経営基盤の充実強化の為の財務管理・統括管理

法人運営の計画に基づく日常業務等に加え、今までの復泉会の営みを評価し、Step5（当法人中長期計画）を作成し、5年後の姿を描き、業務を遂行した。

#### (1) 事務局体制の充実強化

#### (2) 情報管理システムの構築及びリスク管理（情報の一元化 及び 共有）

#### (3) 組織基盤の充実強化・健全な財務体制の確立による総合力の向上

#### (4) 施設整備・設備整備等による環境整備・5カ年計画

#### (5) 地域力・統合力の強化

### 3. 人事及び職員処遇の向上

#### (1) 職務権限と責任の明確化（平成 25 年度を見据えた人事体制構築）

#### (2) 人材育成による処遇改善

#### (3) 資質向上のための研修

### 4. 苦情処理・第三者委員会

	苦情受入状況	事故報告	ヒヤリ・はっと発生状況
平成 24 年度	17件	30件	131件
平成 23 年度	12件	20件	118件

## II. 法人本部・企画推進室

### ◆KuRuMiX 開設準備

- ・観光客が立ち寄ることのできる飲料工場としての機能を持った施設となるよう12月の入札を経て、KuRuMiX 施設整備が着工した。
- ・製造する果実飲料の方向性を定めるため、様々なネットワーク、専門家から意見を頂きながら、180ml 瓶を日産 2,700~5,400 本製造できる機器の選定等、開設に向けて、道筋を明らかにしてきた。

### ◆社会資源の開発、連携強化

- ・復泉会の取り組みを知っていただくことで、行政、地域に携わる団体、企業との連携を高めた。

### ◆研修・研究事業の推進

- ・基礎的な知識、技術の習得のため、成長分野等人材育成事業を活用等、積極的に研修の機会を提供した。

### ◆多様な働く生活への研究・開発（5ヶ年計画等の推進）

- ・誰もが働くことのできる環境の構築、システム、仕組みづくり等の知識の習得のための研修・視察を行った。
- また、作業療法士有資格者で職務・生活を分析し、適正な支援のあり方について研修を行った。

### ◆特定相談事業・一般相談事業の推進

- ・計画相談の事業を開始し、機能強化をした。

### ◆営業力の強化

- ・各種展示会への参加、年末ギフトの提案、チラシの作成等などを通して、内外部への商品周知を行い販売に繋がった。

## III-1. くるみ共同作業所

### ◆働く生活環境の整備（設備整備の運用と生活力の向上・食品衛生）

利用者が、自信を持って主体的に仕事に取り組むことが出来る環境の構築により、自律力の向上に努めた。（自閉症の人の作業空間の構築、治工具の作成・開発研究、品質表示ラベル、作業工程分析による機能性の向上等）

### ◆安心・安定・継続した働く生活の構築（作業収益向上・福祉就労・一般就労）

社会状況を勘案し、施設外就労の充実・下請作業の安定受注・障害者優先調達法による受注拡大準備に努めてきた。

### ◆商品開発・販売促進力（営業）を強化、働く生活力の高揚

ご当地キャラクター「家康くん」をプリントした商品・ドライフルーツ粉末を使った商品・地場の生地や糸を使用した商品の開発・販売に力を入れた。

パッケージや新商品の開発には、今後更なる工夫が必要であり課題として次年度へ連ねる。

### ◆職務分掌により役割の明確化・組織力・チーム力を高め支援力強化

管理者研修等により「学ぶことは変わることを」とし、資質向上に努めてきた。

**◆5Sの実戦：整理・整頓・清潔・清掃・躰**

整理・整頓・清掃を中心に行った。きれいな職場を意識し日々の清掃は定着したが、作業空間の活用や、整理整頓が上手く出来ていない為、探す手間等の無駄が増えたり、乱雑に見えてしまう事が課題である。

**◆他事業所との相互連携力を高め、職員の資質向上を図る**

成長分野育成事業研修や他分野との連携事業を通じて、新たな事業の在り方等について意識向上に努めてきた。

**◆社会福祉振興のための浜松フルーツミュージアム事業の推進**

KuRuMiX 準備室との連携事業として、第6次産業分野とて取り組んでいるところである。3月1日には第2回見本市を開催した。

**◆授産活動**

事業	今年度実績			前年度比較	
	売上	支出	粗利(粗利率)	売上	差額
下請事業	4,564	109	4,454 (98%)	5,313	▲749
自主事業	24,464	14,355	10,108 (41%)	21,374	3,090
施設外就労	15,494	109	15,385 (99%)	20,303	▲4,809
雑収入	346	0	346 (100%)	307	39
計	44,868	14,573	30,295 (67%)	47,297	▲2,429

**◆工賃実績**

**【全体】**

	就労移行支援事業		就労継続支援B型事業		生活介護事業		全体	
	H25	前年	H25	前年	H25	前年	H25	前年
平均	¥25,974	¥20,371	¥25,794	¥33,791	¥8,022	¥8,775	¥19,930	¥20,979
最高	¥44,691	¥36,853	¥62,750	¥85,519	¥15,903	¥18,697	¥41,114	¥47,023
最低	¥9,749	¥6,222	¥9,251	¥4,757	¥2,737	¥1,981	¥7,245	¥4,320

**Ⅲ-2 くるみ共同作業所（浜松フルーツミュージアム事業推進）**

**◆果実飲料の商品化への研修・研究**

- ① 「あちの里」における飲料製造実地研修を実施した。
- ② 「飲料製造工場建設スペシャリスト」を誘致するなどし、果物の基礎知識・衛生面の基礎知識を学び、製造プラント等の設備等見直しを行った。
- ③ 「KuRuMiX」を商標登録し、ブランド化へ向けての活動を推進した。
- ④ イベント等における飲料販売（実地研修で製造したもの）を通しマーケティングを行うなどし、KuRuMiX飲料のコンセプト等を決定した。

**◆地産地食の推進**

- ① 浜松フルーツミュージアム第2回見本市開催へ向けての委員会を開催した。（農家・行政・企業等が委員会に参画していただき開催内容等検討）
- ② 浜松フルーツミュージアム第2回見本市の開催と開催後の評価をし今後へ向けての検討、来場者に対してのフォローを行った。

浜名湖海苔推進協議会や百姓のチカラ等、地域の取り組みに積極的に参画して情報収集・情報発信・共同事業を開催した。

**Ⅳ. くるみ作業所**

**◆サービスの質の向上**

利用者個々を知る事や理解に努め、話し合いの場を多く持ち、意見を交換する中で互いに学び合いながら自主性を促した。また、各種研修に参加し知識を高めると共に、学んだ事を行動に表せるように、個々のスキルの向上を目指した。

**◆地域との連携**

地域との連携では、今までのつながりを大事にすると共に、新たな地域行事に参加をし、積極的に「くるみ」を知ってもらう機会と理解を深めた。

**◆社会自律の促進**

社会自立の促進では、その人なり的一步を踏み出すと共に、新たな可能性を引き出せられるように関わりを深めた。

◆授産活動					
事業	今年度実績			前年度比較	
	売上	仕入	粗利(粗利率)	売上	差額
下請事業	5,233	0	5,233 (100%)	5,732	▲499
自主事業	5,730	1,720	4,010 (70%)	6,726	▲996
施設外就労	1,814	0	1,814 (100%)	1,848	▲34
計	12,777	1,720	11,057 (87%)	14,306	▲1,529

  

◆工賃実績								
	就労移行支援事業		就労継続支援B型事業		生活介護事業		全体	
	H24	前年度	H24	前年度	H24	前年度	H24	前年
平均	¥18,508	¥16,295	¥15,485	¥15,873	---	---	¥15,972	¥15,940
最高	¥31,450	¥28,988	¥27,241	¥34,168	---	---	¥29,345	¥34,168
最低	¥9,766	¥3,600	¥0	¥2,329	---	---	¥4,883	¥3,600

## V-1 第2くるみ作業所(主)

◆安心・安定・健全運営と福祉力の向上								
<p>利用者が安心・安定した働く生活が営めるよう、日々のコミュニケーションや居場所作りに努めることで、94.6%の出勤率を確保できた。</p>								
◆働く生活を提供することにより、社会参加・生活参加による自律促進								
<p>事業所から一歩外に出て働く場(施設外就労)を提供することで、地域の方との交流が増え、挨拶をはじめ社会のルールを知り、実体験として一人ひとりの自律に繋がった。</p>								
◆高齢化・重度化含めた幅広い支援と、職員の資質向上								
<p>50歳を過ぎた利用者が全体の1/3を占め、日々作業所に通ってこれることを大切に支援してきた。また日々の言動等から体調を把握し、職員共通理解のもと作業・生活面において一人一人に応じた適切な支援に努めた。</p> <p>さらに利用者が50歳を過ぎているということは、ご家族は更に高齢者であるということを受容し受け止め、ご家族とも年齢的配慮としてご家族だけでは対応できなくなっている支援(通院支援や送迎支援等)を連携しながら取り組んだ。</p>								
◆他事業所との連携力アップ								
<p>紙回収を通して、事前に業者による回収日を定め、情報発信することで事業所間の連携力を高めることに努めた。また、研修や会議への参加を通して得た情報を職員間での共通認識にすることに努めた。</p>								
◆授産活動								
事業	今年度実績			前年度比較				
	売上	経費	粗利(粗利率)	売上	差額			
下請事業	1,766	0	1,766 (100%)	2,176	▲410			
自主事業	1,760	476	1,284 (72.9%)	1,356	404			
施設外就労	1,372	102	1,270 (92.5%)	1,186	186			
計	4,898	578	4,320 (88.2%)	4,718	180			
◆工賃実績								
	就労継続		生活介護		生活訓練		全体	
	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度
平均	¥15,226	¥15,780	¥2,325	¥2,479	¥0	¥2,017	¥10,915	¥11,092
最高	¥35,891	¥30,391	¥3,783	¥3,817	¥0	¥2,233	¥35,891	¥30,391
最低	¥6,316	¥5,825	¥1,783	¥367	¥0	¥1,800	¥1,783	¥367

## V-2 くるみの木(従)

◆基本的な生活習慣の支援	
<p>言葉での表現が難しい利用者が多いなか、「見・観・身・診・視・看て」をより重視したかわりをする中で、利用者が自立した日常生活を送れるように支援に努めた。</p> <p>「やってもらう」生活から「自分の事は自分で行く」を基本に、移動・決まり・軽作業、身辺処理等具体的活動を通して、細かな部分にも十分配慮することに努め、自ら行動することの積み重ねによる生活習慣の獲得にむけ</p>	

て取り組んだ。

◆健康管理

毎日の健康チェック（血圧・検温・体重測定）による健康管理や、日々の様子観察による体調把握とともに、家族との情報交換を密にしながらきめ細かな対応に努めた。また、月1回のドクター回診にて必要な健診を行った。

◆社会活動の充実

ケースに応じた課題を提供、日中の活動内容が豊かなものになるように努めた。また軽作業・アルミ缶回収にも積極的に取り組んだ。月1回の定例会活動や行事への参加を通して、社会活動の充実に努めた。

◆職員の資質向上

利用者一人一人へのきめ細やかな支援を行うために、職場内でのOJTに努め、かつ動作法等外部の方から助言アドバイスを有効に活用した。

◆工賃実績

	生活介護		全体	
	本年度	前年度	本年度	前年度
平均	¥11,682	¥25,503	¥11,682	¥25,503
最高	¥21,823	¥45,032	¥21,823	¥45,032
最低	¥6,000	¥20,000	¥6,000	¥20,000

VI. ワークショップくろみ

◆福祉サービスの質の向上

ニーズに応える為、研修や実践を通し、職員の資質向上を図り、サービスの提供へと具体化することが出来た。まだまだ課題解決しなければならない点もあるが、今後も一つ一つ丁寧に対応していく。

◆職務分掌による役割の明確化とチーム力アップ

担当は自らの役割を遂行できるよう、職務内容を充分把握し、業務に取り組んだ。全職員でのミーティングや会議、各種打ち合わせの実施により、周知と実行を繰り返すことで、チーム力が高まりつつある。

◆豊かな働く生活から可能性を引き出す環境づくり

利用者が、今発揮できている能力の向上と、潜在している能力の引き出しに重点を置き、作業分析や作業配置、新たな挑戦を創り出し、自主的な作業への取り組みを提供した。意欲をもって作業に取り組めることが、利用者にとって、継続した働く生活を送っていきけるポイントであると考えられる。

◆新たな働き方の研究と創出

今ある就労事業に留まらず、常に様々なことに触れ、学び、より良いものへと追求し、『働き方』について研究を続け、アンテナを伸ばし、発想力を高め作業へ結びつけることができた。利用者の『働く』を守りつつ、時代の変化や進化にも取り組み、対応した。

◆地域との連携及び情報発信

「人」、「物」、「事業」、全てのものが、くろみとしての情報になるということを頭に置き、積極的に発信をした。地域の方に支えられ、今がある。今年度の活動の中でも多くの方たちと繋がる事が出来た。自分達が支えられるだけでなく、くろみからの発信で地域を幸せにすることも出来たと感じることもあった。来年度も引き続き、ささえられるだけではなく、ささええる存在にもなっていくことを今後も意識し続けていきたい。

◆授産活動

事業	今年度実績			前年度比較	
	売上	仕入	粗利（粗利率）	売上	差額
下請事業	1,578	0	1,578（100.0%）	1,871	▲293
自主事業	2,080	940	1,140（54.8%）	1,997	83
施設外就労	3,265	122	3,143（96.2%）	3,220	45
雑収入	23	0	23（100%）	0	23
計	6,946	1,062	5,884（82.3%）	7,088	▲142

◆工賃実績

	就労継続				全体	
	H24	前年			H24	前年
平均	¥15,398	¥16,424			¥15,398	¥16,424
最高	¥53,279	¥53,487			¥53,279	¥53,487
最低	¥3,931	¥4,753			¥3,931	¥4,753

## Ⅶ. 居宅事業部

- ◆多様な障がいのある方の、地域での生活に関する実践・研究
- ◆機能的コミュニティから地域コミュニティ創りへの脱皮
- ◆地域生活安定のため、経営基盤（サービス）の充実
- ◆自律した生活の獲得及び生活環境の充実
- ◆重度の生活障害のある仲間の生活力の向上・生活環境の充実

以上を重点目標として取り組み、毎月の世話人会議や、利用者の自治会活動、グループホーム連絡会などを通じてお互いに学び合った。

## Ⅷ. 相談支援事業所くろみ

- ◆今年度より、新たに相談支援事業所としての事業申請を行い、特定相談支援事業及び一般相談支援事業の指定を受けて計画相談支援及び基本相談支援を実施した。  
また、当法人における相談支援体制の基盤作りを重点に、国から提示されている実際の計画相談支援の手順を忠実にを行い、手続きも含めて、丁寧な相談対応に心掛けて事業を行った。  
計画相談における福祉サービス等利用計画書の作成依頼の件数としては、浜松市内16か所にある委託相談支援事業所に併設されている特定相談支援事業所へ計画相談依頼が多く行く状況であり、当法人のように特定相談支援事業所のみを受託している事業所には、計画相談依頼が来る状況が少なかった。  
しかし、浜松市の計画相談支援に係る福祉サービス等利用計画書作成が、今後2年間で福祉サービスを利用するすべての障がいを持つ方々に対して義務付けられるとの情報を受けて、浜松市内に福祉サービス等利用計画書を作成する必要が4,000ケース以上ある状況の中で、年度末に福祉サービスにおける受給者証の更新時期と重なったこともあり、計画相談依頼が急増し、その対応に追われる状況があった。
- ◆障害者虐待防止法が施行し、更に障害者の人権の尊重すべき状況が法的にも整備されてきたことから、地域の相談窓口としての機能を有する相談支援事業所としても、法律の理解と遵守、またその啓発を進めていくために、法人内職員会議にて、障害者虐待防止法の勉強会を開催等積極的に体制整備を行った。

## Ⅸ. 償還事業

借入先	年度	借入額	償還金	借入金残額
(独)福祉医療機構		15,000	—	—
第1回償還金	H12	—	1,000	14,000
第2回償還金	H13	—	1,000	13,000
第3回償還金	H14	—	1,000	12,000
利息償還金	—	—	243	—
第12回償還金	H23	—	1,000	3,000
利息償還金	—	—	76	—
第13回償還金	H24	—	1,000	2,000
利息償還金	—	—	57	—

借入先	年度	借入額	償還金	借入金残額
(福)静岡県社協		20,000	—	—
第1回償還金	H19	—	1,967	18,033
利息償還金		—	585	—
第11回償還金	H24	—	1,132	8,420
利息償還金		—	143	—
第12回償還金	H24	—	1,150	—
利息償還金		—	126	7,270

借入先	年度	借入額	償還金	借入金残額
(独)福祉医療機		19,20	—	—
第1回償還金	H22	—	—	19,200
利息償還金		—	35	—
第35回償還金	H24	—	166	13,944
利息償還金		—	18	—

単位(千円)

## X. 社会福祉法人復泉会収支決算報告

貸借対照表 平成 25 年 3 月 31 日現在			
資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	491,198	流動負債	176,444
基本財産	452,426	固定負債	28,633
他固定資産	386,042	負債合計	205,077
	—	純資産の部	
	—	基本金	177,125
	—	国庫補助積立金	331,932
	—	積立金	200,476
	—	次期収支差	415,056
合計	1,329,666	合計	1,329,666

単位(千円)

## XI. 就労支援事業収支決算報告

貸借対照表 平成 25 年 3 月 31 日現在			
資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	441,985	流動負債	165,777
基本財産	398,798	固定負債	26,201
他固定資産	378,273	負債合計	191,978
	—	純資産の部	
	—	基本金	172,085
	—	国庫補助積立金	308,819
	—	積立金	195,826
	—	次期収支差	350,348
合計	1,219,056	合計	1,219,056

単位(千円)

資金収支計算書 24/4/1~25/3/31			
就労支援事業収	69,491	就労支援事業支	66,161
自立支援費収	279,388	人件費支出	201,379
利用料収入		事務費支出	48,778
補助事業等収	15,963	事業費支出	13,485
経常経費補助金収	3,899	借入金利息支出	567
寄付金収入	2,710	会計区分間繰入金	250
雑収入	4,224	経理区分間繰入金	54,767
借入金利息補助金収	27	固定資産取得支	116,603
受取利息配当金収	104	借入金元金償還金支出	5,274
会計区分間繰	6,600	積立預金積立支	
経理区分間繰	54,767	その他の支出	336
施設整備等補助金収	60,820	徴収不能額	
施設整備等寄付金収	2,297	雑損失	
固定資産売却収	40		—
借入金元金償還補助	500		—
その他の収入	779		—
合計	501,609	合計	507,600
		当期収支差額	△5,991

## XII. 居宅支援事業収支決算報告(会計基準)

貸借対照表 平成 25 年 3 月 31 日現在			
資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	49,213	流動負債	10,667
基本財産	53,628	固定負債	2,432
他固定資産	7,769	負債合計	13,099
	—	純資産の部	
	—	基本金	5,040
	—	国庫補助積立金	23,113
	—	積立金	4,650
	—	次期収支差	64,708
合計	110,610	合計	110,610

単位(千円)

前期末支払資金	278,141
当期末支払資金	272,150

単位(千円)

資金収支計算書 24/4/1~25/3/31			
自立支援収入	44,750	人件費支出	38,098
利用料収入	20,832	事務費支出	3,736
運営費収入		事業費支出	13,680
補助事業等収入	2,390	会計区分間繰入金	6,600
雑収入	876	経理区分間繰入金	29
受取利息補助金収入	7	固定資産取得	11,830
会計区分間繰越金収入	250	借入金元金償還金支出	540
経理区分間繰入金収入	29	積立預金積立	
施設整備等補助金収入	6,565	その他の支出	70
積立金取崩収入	2,561		—
その他の収入	34		—
合計	78,294	合計	74,583
		当期収支差額	3,711

前期末支払資	34,835
当期末支払資	38,546

単位(千円)